

ウッディチキン / 沖縄例会

『 例会レポート 29 』

日 程	:	2007年11月7日(水)
会 場	:	カルチャーリゾート フェストーン 沖縄県宜野湾市真志喜3丁目28番1号 TEL098-898-1212
参加者数	:	講習会 = 120名
講演会内容	:	PM6:00 ~ 8:00 ・伊藤豊代表 ウッディチキン活動経過報告 ・下地則子先生講演
親睦会	:	PM8:30 ~ 11:00 出席者数約80名



レポート作成



ウッディチキン総事務局
谷口 隆



<http://woodychicken.com> info@woodychicken.com



< 開会挨拶 >

SOJ伊藤氏挨拶

- ・今回は、まず伊藤代表にウッディチキンの会について説明して頂きます。
- ・続いては、下地則子先生に講演をしていただくことになっています。
- ・下地先生が発行されている本は定価420円ですが、半分は製作代、半分はモンゴルのマンホールチルドレンの子供達に寄付されます。
- ・ではよろしくお願ひします。



< 伊藤代表より会の説明 >

1. 会の説明

- ・6年ほど前、5名の経営者が集まって会を作ろうということになった。
- ・どんな会にしようかということになり、人が入って来難い会にしようということになった。
- ・本を読む会にしようというということで呼び掛けたら30名くらいが集まった。
- ・今は、全国で3000名くらいの会になっている。
- ・全国での例会は先生をお招きしての講演が主だが、本を読む会は各地区での活動に移っている。



2. 会の目的

- ・この会の目的は 本を読むことによる魂の向上、ボランティアで人助けをして積徳することの2つである。
- ・集まった寄付金は、沖縄のNPOアジアチャイルドサポート(ACS)にお渡ししている。
- ・今年の前期は7月に80万円くらい、後期は本日先程90万円くらいを事務所に持参した。
- ・会員さんは、チャリティカットなどで寄付金を集めてくれている。
- ・ウッディチキンの今年の全国例会は、今日が最終日。
- ・しっかり勉強しましょう。
- ・下の写真は、先ほど伺ったACSの様子です。



SOJ伊藤氏講師紹介

- ・ウッディ沖縄は、今7名のオーナーが集まって読書会を開いている。
- ・2月より下地先生より教えを頂いている。

しもじ のりこ

下地則子先生プロフィール

1953(昭和28)年3月15日生まれ。現在54歳。平良市西里出身。71年宮古高校卒業。75年文教女子大学短期学部文芸科マスコミコース卒業。同年、琉球放送と専属契約を結び、タレント活動を開始。

「エアレポート」や「先島アワー」、「コーミンヒットパレード」などに出演する。

現在は司会や講師、ボランティアを中心に活動。

司会は小泉内閣の国民対話「タウンミーティング」、県立武道館、県女性総合センター「ているよ」、県立公文書館の開館式などの大役も引き受けた。



< 下地則子先生講習会 >

テーマ：『ハッピーシンキング』

1. 大切にしよう! 命と心!

- ・沖縄県民35000~36000人が心の病にかかっている。
- ・37人に1名が通院している状況である。
- ・「大切にしよう! 命と心!」をテーマにキャンペーンを展開している。
- ・命を支えているのが心である。
- ・自分を幸福にするのは自分の責任。

2. 赤ちゃんを預かっている

- ・本日もアナウンサーの女性の赤ちゃんを4時起床で、朝5時から子供を預かっている。
- ・彼女は、出産後、番組に復帰して下さいと言われて、仕事もしたかったし、このチャンスを失いたくなくて復帰を望んだが、早朝6:30からの番組なので家族の者には無理だと反対された。
- ・私は彼女のファンだった。
- ・だから彼女のお手伝いをしたかったので、赤ちゃんを預かっても良いと申し出た。
- ・親戚でも家族でもないのに世話をしてくれるとは?と不思議がられた。
- ・彼女は迷っていたので、「こちらは預かると言っているのだから問題はない。問題は迷っているあなた自身です。あなたは私をお姉さんと思ってください。」と言って上げた。
- ・私は、出産にも立ち会ったご縁がある。
- ・彼女は、赤ちゃんを私に預ける決断をした。
- ・友達には、「また難儀をして!」と言われた。
- ・5時に赤ちゃんを連れてくるので、4時起きにした。自分のトライのためにそうした。
- ・早朝からの仕事だと、性能の良いラジオのマイクには「ゲー」というお腹が空いた音が入る。
- ・だから、彼女のために朝ごはんを作ろうと思った。
- ・スタジオのスタッフの分も合わせて、おにぎりを7つ作った。そして1ヶ月続けた。
- ・赤ちゃんは自分の娘に良くなつた。
- ・家族みんな、よいエネルギーが溢れた。
- ・「預けてくれてありがとう。これで家族みんな幸福です。」と報告した。
- ・出来る方法を考えることが大切。



3. ハッピーシンキング

- ・北九州市の「ぼんじわーく」を編集している石丸龍さんに呼ばれて講演をした。そしたらその時の内容を元に、本にしてもらった。
- ・やりたいのであれば、出来る方法を考えていこうと言っている。
- ・私はいつも、こころが喜ぶことを考えている。
- ・これがハッピーシンキングである。
- ・2000年度から、無料で「心の勉強会」を開催している。
- ・以前宗教団体に所属していたがあまりにもお金がかかるので考えた。

- ・無料の会はないので、自分が担当するように考えた。
- ・チャリティーコンサート、モンゴル支援も行っている。
- ・まず、自分が喜ぶ、納得したことだけをやっていく。
- ・問題は自分自身との人間関係である。悩みは全て自分自身の中にある。
- ・自分の考え方を変えていくことが出来れば、100%良い人間関係を作り上げることが出来る。

4 . 人相学の本との出会い

- ・寝て過ごす体験も1ヶ月ほどした。
- ・どう考えてよいのか分からなくなり、とりあえず寝て逃避した。
- ・10年前、45歳の誕生日に右足首を捻挫した。
- ・ギプスと松葉杖で結婚式の司会をした。
- ・そして、2週間家で養生した。
- ・その時、本を読もうと思った。
- ・ある宮司さんが書かれた人相学の本だった。
- ・見えない世界からの本だった。
- ・夫は、鼻の左側にホクロがある。
- ・鼻のホクロで、女性は右、男性は左にあれば、過去世で子供を捨てたことがあり、この世で子供を可愛がる必要があるとされている。
- ・夫51歳(自分45歳)の時だった。
- ・夫の前に結婚していたときの男の子のことが気になった。
- ・小さい時に別れたままなのでわからなかった。
- ・その解決方法とは、人様の子を良くすることでよくなると書いてあった。
- ・そうしたら息子に会えるかな?と思った。



5 . 保育園の話

- ・友人から、保育園をやらないかと声を掛けられた。
- ・彼女の持っているアパートの1階を保育所にしてやっていた。
- ・それをただで譲りたいと言った。
- ・そこには60名の園児がいた。
- ・自分には、それだけの園児を預かるだけのものを持っていないと思って一応断ったが、1週間考えた。
- ・その時点では99%断ると決めていた。
- ・宇宙とコンタクトできるSさんに相談してみた。
- ・友人に電話して、Sさんはどこにいるか聞いたら、車に同乗されて横におられた。
- ・Sさんは言った。「17歳で切れる子供達は、幼稚園の時にストレスでそうなるんだよ!」と言われた。
- ・さらに、「その話を受け入れると、金銭的にも、肉体的にも、精神的にも3重苦を味わうことになる。神様は頼む人がなくて苦勞の末、あなたに頼んだんだろう。園長先生は、給食やおやつを作ることで、右腕の人に同じ価値観を持ってもらいたくて育てている。姪っこに相談してみたら?」と言われた。
- ・私は、Sさんの姪御さんに電話した。
- ・そしたら彼女は「会社を辞めたいと思っていた。明日転職願いを出す。」ということで、1人確保できた。
- ・さらに給食係を探すことにした。
- ・2歳下の妹に相談した。
- ・そしたら、従姉妹の子供に電話してもらったら、「転職したいと思っている」ということで電話した。
- ・10時~15時くらいで保育園で調理士をしないかと言ったらOKという返事もらった。
- ・すぐに人材が集まった。それで、「やる」という意思を決定した。

6 . 息子との再会

- ・その場で夫に電話したら、「それどころではない。息子から電話があった」と言う。
- ・決めた瞬間にそうなった。
- ・1週間後、息子は福岡から沖縄に来た。
- ・娘は中学生だった。
- ・「お兄ちゃんが出る」と会えるのを楽しみにした。
- ・到着出口で待ったが、それらしい人は出てこなかった。
- ・そしたら後ろに立っていた。
- ・息子は、1番に出てきて、後ろに立っていたと言った。
- ・3日間、一緒に過ごした。
- ・これからは父親、兄妹がいることで心の拠り所が出来ると喜んでいた。



7 . 保育園での苦勞と欲からの脱却

- ・保育園では大変苦勞させられた。

- ・初月は20万円、次月は30万円の赤字だった。
- ・施設も、とにかく汚かった。トイレの扉も壊れていた。
- ・同級生が二人尋ねてきてビックリした。
- ・その後、連絡があり、会いたいと言うことで会ってみたら、封筒を渡され、そこには小切手が入っていた。
- ・ゼロの数を勘定した。額面は100万円で、パッチワークで貯めた10年間のお金だということだった。
- ・それを修理代や、施設の改良に全て有効に使わせて頂いた。
- ・8時に出て、9時に帰る生活を3年間続け、保育園を運営したが、結婚式の司会で頂いたお金を全て保育園につぎ込んだ。
- ・その内に、お金に対する執着がなくなった。
- ・自分のお金が役立つ、6~7人の先生の生活が守れて、子供たちが幸福になることで、自分は天からお金を預かって回すことをしているという認識になった。
- ・2時間しか眠れないときが続いた。
- ・こんな時は、「2時間しか眠れなかった」と考えるのではなく「2時間も眠れた」と考えたら充電できて生きていられる。・睡眠欲も取り去られた。
- ・精神的苦勞もあった。
- ・初め、先生たちはスパルタ式教育だった。
- ・私には、娘一人しか育てていないので園児の教育には口を出さないで欲しいと言われた。
- ・そんな時、シュタイナーと言う人の本と出会った。
- ・そこには、「子供達に先生は要らない。子供達に真似される大人がいれば良い。」と書いてあった。
- ・これだと思った。
- ・そして、「ここにいる子供達が笑っていただける様に自分達の仕事をして下さい。」と先生達に言ったらバカにされた。
- ・Sさんに現状報告の手紙を書いた。
- ・そしたら電話が来た。
- ・Sさんは「そこが天国だったら君が行く必要がないじゃないか。さあ、君は何をするんだ。」と言われた。
- ・それからは、シャバに出て行って自分で天国を作るという信念で、いつも子供を抱きしめた。
- ・3年間かかって、やっとやっと先生にも浸透した。

8 . 許してもらふことは忘れてもらふこと

- ・100%許すこと、信頼することが大切。
- ・子供に手を広げると、何も考えずに手の中に飛び込んでくる。
- ・誤って、お盆を子供にぶつけてしまったことがある。
- ・謝った。そしたら、子供はそのことを忘れていた。
- ・許してもらふことは忘れてもらふことである。
- ・この保育園でいろいろ教わった。

9 . 国連へ

- ・君も行かないといけないということで、行くことになった。
- ・ニューヨークで歓迎の会があった。
- ・リーダーの方が会う人全てに「あなたの神は？」という質問をしていた。
- ・全員、自分の信じる神を答えていた。
- ・リーダーは、その全ての答えに対し、それを受け入れていた。
- ・凄いとと思った。



10 . 勉強会のスタート

- ・あなたの心の中の宇宙と対話しなさいと言われた。
- ・「これから大人を変えなさい。この「神との会話」という本で勉強会をしなさい。」というお告げを頂いた。
- ・愛と言うエネルギーの元に、1つになれると気付いた。
- ・どうやって勉強会をしていったら良いのか分からなかった。
- ・3月勉強会をやって下さいと言ってきた人は、「神との会話」の本を持ってきた。
- ・自分自身を好きになること。自分自身を作っていくこと。自分の好きな方を選択していくこと。
- ・本の中にも書いているが、ボロボロの身体の人がこの勉強会に来られて、見事にきれいになったと言うこともある。
- ・ガンの人にも、楽しい人生を、命をかけて楽しみなさいと言ってアドバイスしたら、今までなかったゲートボール、カラオケ、水泳などを優先的にされた。
- ・そして3年間癒された後、病院で検診したらガンは無くなっていた。
- ・しかし、1年後には亡くなられたが、人生を謳歌されて、悔いはなかった。

11 . ボディ・イズ・メイド・イン・ゴッド!

- ・「Body is made in GOD!」である。

- ・自分の身体、子供の身体も自分の意志・力で作ったものではない。全て神が作られたものである。
- ・子供は、それぞれに生きる力と運命を持って出てきた。
- ・なぜ、あなたはそんな子供を支配することが出来るのですか？と問われた。
- ・それからは、子供と大親友になることが出来た。
- ・身体取り扱い説明書があり、嬉しいと身体が喜び、悲しいと身体を傷める。

12. モンゴルへの支援

- ・アジアチャイルドサポートからモンゴルのマンホールチルドレンの子供たちの支援を引き継いだ。
- ・この件は、保育園以上に悩んだ。責任は、保育園の数十倍だった。
- ・「モンゴルの子供も、自分の子供と考えるようにした。」
- ・今、愛を持ってならどう思うかと考える。
- ・保育園は60名の子供がいて24時間場所があるが、モンゴルの35名の子供たちは行き届かない。
- ・愛を持ってあたると怖いものがなくなる。



13. 受け入れる

- ・娘は、18歳で子供が出来た。
- ・私は、「あなたの幸福になれる方法でやりましょう」と言った。
- ・答えを聞いたら、「それがあなたの覚悟ですね」と確認した。
- ・それを受け入れることが大事。
- ・私は、何でも楽しもうと思っている。
- ・人生は料理と同じ。
- ・私は、人生の出来事を食材と思っている。幸福と言うスパイスをかければ全て幸福の味になる。
- ・来たものであれば、必要だから来たと思うこと。楽しみに変えて行けばよい。
- ・宇宙の応援がある。それで恐れがない。
- ・「ありがとう。感謝します。」と言うと、良い方に変わっていく。
- ・「いいことだね」というと、そうでない人達が、その様に変わっていく。
- ・物事は見方である。
- ・どうせ見るんだったら、幸福の方から見る。
- ・どんな出来事に対しても、「ありがとう。感謝します。」と言える様になりましょう。

ありがとうございました。

来年度の定例会日程です。

- 1月 ナシ <断食を予定>
- 2月 6日(水) 関西(京都總會)
- 3月12日(水) 高知(初回)
- 4月 9日(水) 松山
- 5月14日(水) 名古屋
- 6月11日(水) 札幌
- 7月 9日(水) 静岡(実行委員会)
- 8月27~29日(水) 第3回福井サマーカレッジ
- 9月10日(水) 三重
- 10月 8日(水) 東京
- 11月12日(水) 沖縄
- 12月 ナシ



～ 懇親会の写真は、別途写真集をご覧ください。 ～

今年1年、ありがとうございました。

来年も、もっともっと、ソウルメイトの絆を深めていきましょう！